

「この班をなくしたくない」と 職場班で仲間が増えた!

山形・鶴岡支部かけはし班

鶴岡市内の介護施設の職場にある、かけはし班。5年ぶりに班会を開き、新しく仲間を迎えた経験を紹介します。

班活動もゆるやかでいいんだ!

かけはし班は、介護施設で働く人たちによ

つて約20年前に発足した班です。働く時間帯や部署が違い、同じ時間に集まるのが困難で、班会は長く開けな

いでいました。年に一度、積み立てたお金で食事会や楽しい集まりをするのが唯一の行事です。

てしまいました。

班長の結城さんがあって2、3年で退職することもあり、「自分が辞めたら班がなくなってしまうのでは」「憲法9条が危ない今の情勢、何もしないでいいのか」と思い悩んで

ました。結城さんは班の2人に対して「会費を払って残ってくれて



ラムサール条約登録湿地の大山下池へ。職場の登山サークルの仲間の案内で

班会で誘いたい人が次つき

3月9日、仕事の後に職場の休憩室を借りて5年ぶりに班会を開きました。3人で集まると、「楽しいことなら参加したい人はもっといるんじゃない」と仲間づくりの話もでき、2人から「あの人が誘ってみよう」と次つぎと名前が出されました。春の散策を提案すると、「そこに誘いな

ら、明日から声をかけよう」となりました。結城さんは「いままで仲間づくりの話は難しいと思っていただけけれど、もっと早く話せばよかった」と勇気ももらいました。

班会を終えて駐車場に出ると、誘いたいと話していたAさんがそこに! さっそく「あなたを新婦人に誘いたい

いている話を聞き、「きちっとした班会でなくともいいんだ」と気づきました。「会員3人で試して班会を開いてみよう」と決意し、思い切って話すとき快く参加することに。

いねって話していたのよ」と言うと、散策に参加することに(写真)。次の日から、みんな声をかけると、「そういう誘いをされたのは初めて」とうれしそうに話し、「私でもいいの?」3月から

職員に復帰した元会員も「また一緒に」と再入会など、声かけを待っていたかのような入会で、班が倍加し、ピツクリです。

班では、4月に新会員4人の歓迎会を計画中です。「戦争を身近に感じる。こんな情勢に班がなくならなくてよかった。しんぶんタイムもしてみんなで話したい」と、今後の班会の内容も相談しました。

主張

「戦争反対」「憲法守ろう」と4月8日、会社帰りの人やペンライトを持った女性、思いを書いたボードを持った人など3万を超え

出合いが広がるいま、しんぶんの配達・集金を確実に

新婦人しんぶんを活動の中心にすえて憲法カフエ・タイムを無数に開

配布。みんなの意見を聞くと、新入会員も含め、「手伝えるよ」「やってみよか」と配達者が3人増え

ました。守口支部「コスモス班」でも、「毎日散歩しているから、この家なら私もできるよ」と。泉佐野支

【訂正】4月11日号4面に掲載した第197回中央委員会決定で、1章に入る前の前文が抜けていました。以下の文を挿入します。「新日本婦人の会は、第32回全国大会後、47都道府県本部大会、支部大会を開き、発言に学び合ってきました。かつてない情勢のもと、大会決定の実践がいよいよ重要になって

〈月1回〉

東京電力福島第一原発事故

あの日から15年

④



浪江町民 門馬昌子

東京電力福島第一原発の事故で浪江町から東京都北区に避難し、夫が亡くなった後は反原発の集会や裁判傍聴など活動の日々だった。浪江町にいた頃から、いろんな活動をしてきた。娘が小学校に入学したとき、町に図書館がなかった。子育て中の友人と相談し、郡山市立図書館や福島市立図書館から本を借りてきて、6軒の家で家庭文庫を開催。「おかげで本が好きになった」「国語が得意になった」などと子どもたちから手紙をもらい、やってよかったと思った。

豊かな自然のもと、子どもたちと

退職後は自宅の西に30坪の畑を借りて家庭菜園を始めた。娘が東京にいて、孫ができたから野菜を収穫させたいと思っていた。それまでは近所の子どもや母親たちに栽培を体験してもらうことに。町のグリーンフェスティバルで15種類の苗を買い、あらかじめ土おこ



シイタケ栽培の樽木を準備

こんな活動が楽しい思い出になってほしいが、原発事故後はそれぞれの避難先がつかめず、あの子たちが今どこでどうしているのかわからない。みんな、元気でいてほしい。